

(1) 下新宿を取り巻く環境の変化に相応した基本的考え

平成28年度は熊本地震・糸魚川の火災等、毎年大きな災害が発生しております。

この地域においても様々な土木工事が行われていて、

- 1) 江戸川放水路の高潮対策として堤防かさ上げ工事
- 2) 外環道路建設工事
- 3) 行徳橋新設工事
- 4) 妙典橋新設工事 等、

行政は様々な防災対策、道路整備工事を行っております。

下新宿自治会としても、行政の防災対策に頼るのではなく、自らが積極的に防災に対し備えることが必要ではないでしょうか。

具体的には、

- 1) 各家庭での防災対策備品の充実と防災意識の共有化
- 2) 各種事業活動を通じ、更なる顔の見える街づくりと、「住んで良かった」と感じる温かい心のかよう環境づくり
- 3) 「ひまわりの会」「タンポポの会」の支援と会員の拡大

この3本の柱を中心に取り組んで参ります。

また、将来の自治会活動を更に発展させる為には、自治会員の参加型支援が何よりも重要であると考えております。

〈課題〉

- ① 現理事の就任期間が10年を超えようとしていて、高齢化が進んでいる。
- ② 昨年発足したタンポポの会(40歳前後)は将来を担う若手ですが、現職でもあり子育て中でもあります。
- ③ 理事に女性の参加が無く、女性の意見が入りづらい。
- ④ 自治会館(社務所兼)が狭く、大きな集会が出来ない。

〈方向性〉

- ① 自治会員で60歳～75歳の新しい考えを持つ人が理事を担い、新しい街づくりに寄与してほしい。
- ② 災害時の相互扶助の精神をもう一度自治会員一人ひとりが考えて、地域の”安全・安心の街づくり”に参加してほしい。
- ③ 本年度1名の女性理事が就任しますが、将来理事の半分を女性に担ってもらい、地域貢献につながる意見を頂きたい。

## (2) 幅広い住民参加の自治会

### 1) 自治会活動の情報開示

総会前に議案書を全会員に配布し、自治会運営の理解をいただく。  
回覧・掲示板・ホームページの更新を行い、自治会活動を公示する。

### 2) 地域住民が自治会活動に容易に参加できることを目指す

組長さんとの定期的情報交換会（奇数月、6回／年）を継続する。  
顔の見える街づくり（近所同士の連携やコミュニケーションの強化）及び“世代間の交流”を目指して、レクリエーション行事を実施する。

新入会員の募集（集合住宅を含めた地域の皆さんの自治会活動への参加促進）

気軽に子育て・介護相談できる地域窓口（行政への仲介窓口）を継続する。

### 3) 防災対策の強化

防災備品のさらなる整備拡充

防災マニュアルの見直しと、防災用具備品の使用方法を全自治会員が習得するための訓練を行う。新規自治会員については防災マニュアルの配布と講習会を行う。

10月に実践的な防災訓練（各家庭における防災訓練、防災組織とその役割と機能の確認、行動訓練、炊き出し訓練）を実施する。